

採用施設一覧 (◎は基幹施設、○は連携施設)

◎墨東病院
○大塚病院
○駒込病院◎多摩総合医療センター
○多摩北部医療センター

研修プログラムの特徴

● 大塚病院 (連携施設)

指導医責任者：産婦人科 岩田 みさ子
連携をしている基幹施設病院：多摩総合

当院は、東京都区部に存在する総合周産期母子医療センターとして高度な周産期医療を提供し、常時都内上位の母体搬送受け入れ件数を誇るとともに、地域中核病院として、婦人科疾患や生殖内分泌、女性のヘルスケア診療も行っています。また、恵まれた立地とセンター機能を活用し、さらには基幹施設である多摩総合医療センターでの悪性腫瘍症例の経験、連携している東京医科歯科大学病院での生殖医療の研修も含め、バランスの良いキャリア形成が可能なプログラムになっています。

[1年次] 当院にて産婦人科の基本手技の習得を行うとともに、周産期医療における妊産婦管理、婦人科良性腫瘍患者の診断・治療、産婦人科救急医療を中心に研修を行います。妊婦健診、産後1カ月健診、一般初診、再診外来を担当します(当初は指導医の監督下に行います)。

[2年次] 基幹施設である多摩総合医療センターに6か月所属し、婦人科悪性腫瘍の診療を中心に研修します。3～6か月は地域医療研修として、産婦人科領域全般を広く研修します。より主体的な立場が求められ、知識・技術の定着が期待されます。女性のヘルスケアに関する診療も経験する機会も得ます。東京医科歯科大学病院で生殖内分泌診療と婦人科手術を中心に研修を3か月行います。

[3年次] 当院にて、これまでの経験をさらに深い知識・技術に深化させます。自分のサブスペシャリティへの方向性を持てるよう、診療内容の調整が可能です。初期臨床研修医、シニアレジデント1年目の指導を通じて、自身の知識、技術の再確認、定着を行います。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
 研修コース モデル	1年次											
	大塚病院											
	基本手技の習得、妊産婦管理、産婦人科救急、婦人科良性疾患の手術を中心に研修。7月頃から妊婦健診、一般外来も段階的に担当。											
2年次												
多摩総合医療センター						地域医療 (多摩北部医療センター)			生殖医療 (東京医科歯科大学)			
多摩総合医療センターでは悪性腫瘍を中心に研修を行う。地域医療では主体的な立場での診療、女性のヘルスケア診療の経験機会も期待される。												
3年次												
大塚病院												
生殖医療研修は2-3年目の間で3か月間。3年目は大塚病院でシニア1年次の指導も行い知識、技術を深化させるとともに専門医受験への準備を行う。												

● 駒込病院 (連携施設)

○ 駒込病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

婦人科腫瘍

プログラム責任者：婦人科 喜納 奈緒 プログラム研修期間：3年

当プログラムは日本産婦人科学会専門医取得後のサブスペシャリティ領域である婦人科腫瘍分野を研修し婦人科腫瘍専門医を養成するプログラムです。当院では婦人科悪性腫瘍中心の治療を行っており、開腹手術を主として、腹腔鏡下手術、ロボット支援下手術をはじめ放射線治療、薬物療法、緩和治療を含め婦人科腫瘍専門医取得を目指す幅広い研修が行われます。多くは3年終了時に専門医取得に必要な症例数を達成し、高度な治療技術が習得できています。他、希望があれば、日本遺伝性腫瘍学会専門医や臨床細胞診学会専門医の研修も可能です。

● 墨東病院（基幹施設）

都立墨東病院産婦人科専門研修プログラム

プログラム責任者：産婦人科 兵藤 博信 プログラム研修期間：3年

連携施設病院：大塚 / 多摩総合

東京大学医学部附属病院 / 聖路加国際病院 / 順天堂大学医学部附属順天堂医院 / 焼津市立総合病院 / 公立昭和病院

当院産婦人科は、東京都区東部唯一の総合周産期センターを新生児科とともに運営する周産期医療の要としての役割と、国の定める地域がん拠点病院における婦人科癌診療の中心施設としての側面で成り立っています。周産期部門では、年間約1000件の分娩を取扱い、とくにきわめて早い時期の早産や、ハイリスク妊娠、さまざまな合併症妊娠に対応し、広範囲から送られる母体搬送の件数は年間200件を超え、都内随一です。当院の研修では、正常分娩から鉗子分娩などの産科手術、帝王切開手術に数多く臨むことができます。婦人科部門では、子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌をはじめあらゆる婦人科悪性腫瘍に対し、手術療法、放射線療法、抗癌剤による化学療法を数多く行っています。研修では多くの手術を経験し、さまざまな治療法を組み合わせた治療の計画に参画し、術前術後管理など、外科的治療の基本を学ぶことができます。良性疾患に対して、可能なものは腹腔鏡手術を行っています。開腹手術を含め、手術の執刀まで研修期間中に行うことが可能となります。当院産婦人科は、日本産科婦人科学会の専攻医指導施設であるばかりでなく、日本周産期・新生児医学会の周産期専門医（母体・胎児）認定基幹施設に、また日本婦人科腫瘍学会の婦人科腫瘍専門医指定修練施設に指定されており、それぞれの複数の専門医が研修指導にあたります。また、当院が1次・2次および3次救急施設、精神科救急施設であることから、産科救急、婦人科救急の症例にも多く接する研修が可能です。第一目標は産婦人科専門医資格の取得です。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1年次	周産期研修			周産期研修			周産期研修			婦人科研修			
	周産期医療の基礎を学び、基本的な診療手技を身につけることが第一に必要である。産婦人科医療に対する基本を習得した段階で、婦人科手術に臨む基本的態度を身につける。												
2年次	地域医療（焼津市立総合病院）		地域医療（焼津市立総合病院）		生殖医療（聖路加国際病院）			生殖医療（聖路加国際病院）					
	地域医療に接することにより、産婦人科医療の現状に対する視野を広める。焼津市立総合病院は、生殖医療も行っているのので、生殖医療に接することも可能である。さらに、都市部における産婦人科医療に接するために、聖路加国際病院の勤務も可能である。また、東京大学医学部附属病院を選択することも可能である。												
3年次	婦人科研修		NICU研修			周産期研修			周産期研修				
	悪性腫瘍診療における病棟業務を学びとる。再び周産期医療を行う前にNICU研修を受け、新生児側の視点を身につけた後に、帝王切開の術者が可能となる。												

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

新専門医制度
婦人科腫瘍

プログラム責任者：産婦人科 岩瀬 春子 プログラム研修期間：3年（～7年）

当院は地域がん診療連携拠点病院として、区東部のがん診療の中心的役割を担っています。早期がんから進行がん にいたるまで多くの患者さんが来院されており、診断から治療、経過観察等系統的に学習を積むことが可能です。手術については卵巣癌根治術や広汎子宮全摘出術はもちろん、2022年1月からはロボット支援下手術も開始しており、低侵襲手術も併せて経験することができます。他、化学療法や放射線治療、緩和治療についても多くの経験が可能です。さらに、臨床試験への参加や、臨床研究、学会発表、論文執筆などの指導も行っています。

新専門医制度
周産期

プログラム責任者：産婦人科 兵藤 博信 プログラム研修期間：3年

東京都区東部地域の総合周産期センターで、早産や低出生体重児の症例が豊富です。また、総合病院であり、かつ、救命救急センターを備えており、合併症妊娠や産科救急の症例も豊富です。さらには、都立病院という背景から、社会的ハイリスクも数多く受け入れ、その対応、サポートについても学ぶことができます。

周産期専門医・指導医合わせて8名で、1例1例、母体や児の病態を考えながら、また毎週の新生児科とのカンファレンスや、症例ごとに他科・他部門と知恵を出し合い治療に臨み、そういった診療の最前列で経験を積んでいきます。決して他の施設では経験できないような「濃い」研修ができると思います。

● 多摩総合医療センター（基幹施設）

東京都立多摩総合医療センター産婦人科研修プログラム（東京医師アカデミー専門研修プログラム）

プログラム責任者：産婦人科 谷口 義実 プログラム研修期間：3年

連携施設病院：大塚/駒込/多摩北

東京医科歯科大学病院 / 杏林大学医学部付属病院 / 青梅市立総合病院 / 立川相互病院 /

田園都市レディースクリニック

多摩総合医療センター産婦人科研修プログラムは、東京都が運営する専門医養成組織である東京医師アカデミーの専門研修プログラムの一つです。本プログラムの基幹施設である多摩総合医療センターは、地域がん診療拠点病院であり、また一体として開設されている小児総合医療センターと連携して、総合周産期母子医療センターでもあります。当院産婦人科は、全国的にも上位に位置する年間150件以上の婦人科悪性腫瘍手術件数を有し、また総合周産期母子医療センターの産婦人科として年間150件以上の母体搬送を受け入れ、同時にスーパー母体救命対応施設（都内6施設）としての救急診療も実践しています。研修は2年間を基幹施設である当院産婦人科、1年間を東京都内もしくは神奈川県内の連携施設で行います。当院産婦人科では、婦人科腫瘍、周産期、女性のヘルスケア領域を中心とした広範囲の高度な医療を研修し、連携施設では、内分泌分野、特に生殖補助医療と地域医療を含めた研修を行います。また当院産婦人科は、産婦人科専門研修における基幹施設であることに止まらず、専門研修修了後の婦人科腫瘍専門医、周産期専門医（母体・胎児）の修練施設でもあり、サブスペシャリティ領域までカバーする質の高い指導医が豊富に在籍しています。3年次の当院産婦人科研修では、サブスペシャリティ領域の専門医取得に向けた機会を提供することも可能です。3年間で本邦の標準治療や先進的な医療と地域の実情に合わせた実践的な医療を行える人材の育成を目指します。

研修コース
モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	産婦人科（多摩総合医療センター） 産婦人科基礎（正常妊娠・分娩・産褥、正常新生児、婦人科良性腫瘍の診断・治療・手術）											
2年次	連携施設①						連携施設②					
3年次	産婦人科（多摩総合医療センター） 産婦人科応用（ハイリスク妊娠・分娩、婦人科悪性腫瘍の診断・治療・手術、腹腔鏡手術）											

連携施設①は生殖補助医療含む生殖内分泌強化可能な病院。連携施設②は産婦人科地域医療の経験可能な病院。

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

周産期

プログラム責任者：産婦人科 谷口 義実 プログラム研修期間：3年

当院は日本周産期・新生児学会の周産期専門医（母体・胎児）の修練中に研修が必須な指定基幹施設です。また当院は総合周産期母子医療センターであり、東京都指定の母体救命対応施設でもあります。年間約1200件の分娩、200件の母体搬送、25件の母体救命症例、500件以上の帝王切開と3年間の修練で周産期専門医取得が可能となる十分な症例数が見込まれる。また当科には専門医、指導医資格を持った医師が複数在籍しており十分な指導体制が整っている。

研修期間中は基本的に3年間を多摩総合医療センター産婦人科での修練とし、希望者は2年目に3ヵ月程度小児総合医療センター新生児科での研修も可能とする予定です。修了時点で日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医試験の受験資格が得られるカリキュラムを組みます。